令和７年度　やまがた社会貢献基金助成事業　活動報告書

団体名	特定非営利活動法人やまごや		
事業名	障害の社会モデルに基づくインクルーシブな学びの場推進事業		
助成事業区分	協働助成事業（テーマ希望型）【テーマ：子どもの健全育成支援事業】		
団体の所在市町村	鶴岡市	**事業費**	1,012,341 円
		うち助成金額	1,000,000 円
事業実施期間	令和７年６月 11 日～令和８年２月 28 日まで		

事業目的・実施内容

（事業目的）

本事業は、障害の社会モデルに基づき、障害児を含むすべての子どもが安心して学べる環境を整備し、インクルーシブ教育を地域に広げることを目的とした。具体的には、①障害を個人ではなく環境や制度の問題として捉える「社会モデル」の視点を参加者全員で共有し（共通認識の構築）、②教育現場における合理的配慮の具体的な提供方法を学んで実践力を高め（実践力の向上）、③教育関係者・専門家・保護者等の連携を強化して継続的な支援体制の基盤を整備する（支援ネットワークの構築）ことを目指した。フリースクール「SORAI SCHOOL」への作業療法士（ＯＴ）による伴走型支援を軸に、地域全体のインクルーシブ教育の推進に取り組んだ。

（実施内容）

◯ＯＴＤワークショップ「ゲームを通して考えるインクルージョン」（8/24・庄内産業振興センター・教職員／保育士／放課後等デイ職員等）

多様性による組織変革（ＯＴＤ）プログラムを用い、ゲーム体験を通じてマジョリティの無意識の前提に気づき、「障害の社会モデル」を直感的に理解した。参加者の 85.7%が「大変満足」、100%が「身近な人に勧めたい」と回答。

◯第１回活動報告会（10/17・庄内産業振興センター第２研修室）

ソライスクールでのＩＣＴ活用「デジタルシーカーコース」を報告。手書き中心の慣習を「表現のバリア」と捉え、iPad 導入により読み書きに困難のある児童の主体的な表現を実現した。参加者全員がＩＣＴ活用を「極めて有効」と評価。

◯第２回活動報告会（11/21・鶴岡市中央公民館）

ＮＨＫ for School 教材「クイズ！一番悪いのだ～れだ？」を用いた授業を報告。「心の電話」で登場人物の見えない背景を知り、ステレオタイプを問い直す対話のプロセスを共有した。参加者全員が「有効」と回答。

◯成果報告会（1/24・庄内産業振興センター第２会議室・オンライン併用）

地域の居場所活動紹介・事業成果報告に加え、東京大学の飯野由里子氏・平林ルミ氏による特別講演「『社会モデル』から始めるインクルーシブな学校づくり～明日からできる第一歩～」を実施した。

◯成果報告書の作成・配布：実践事例・専門家コメント・アンケート結果をまとめた冊子を作成し、関係機関・教育委員会へ配布した。



▲成果報告書「すべての子どもが安心して学べる地域へ」表紙



①ＯＴＤワークショップ（8/24）

事業の成果	各回のワークショップ・報告会には教員・保育士・専門職・保護者など多職種が参加し、いずれも高い評価を得た。ＯＴＤワークショップでは 85.7%が「大変満足」、参加者全員が推奨意向を示した。ＩＣＴ活用や多様性理解の報告会でも参加者全員が「有効」と回答し、「読み書きが苦手なことを障害と捉えるのではなく、環境がそれを障害にしている」といった社会モデルの視点が浸透した。フリースクールでの伴走型支援では、書字負担の軽減や空間の構造化などの環境調整により、児童が自己効力感を高め主体的に学ぶ姿へと変化した。作業療法士の専門的視点と東京大学の研究知見を現場に還元することで、社会モデルを基盤とした地域内ネットワークの基盤を構築できた。
今後の展望	本事業で得られた実践知を基に、東京大学大学院バリアフリー教育開発研究センターが主催する「インクルーシブな学校づくり研究会」（月１回開催）への参加を軸に、社会モデルを基盤としたネットワーク構築を進める。伴走型支援については、①視点の転換、②専門的知見の定着、③組織力の強化という３つの可能性が示されたことから、作業療法士等の専門人材を交えた自治体単位での展開を目指す。リソース不足・「特別扱い」への懸念・継続性の欠如といった課題に対し、日常的に学び相談できる仕組みづくりと成果報告書の活用を通じて、社会モデルに基づく教育実践が「特別な支援」ではなく「当たり前の環境」として庄内地域、そして山形県全体に根付くよう活動を継続していく。



②第１回活動報告会（ＩＣＴ活用）



③第２回活動報告会（多様性理解）



④成果報告会（オンライン併用）

団体概要

団体名：特定非営利活動法人やまごや

代表者：代表理事　平向　正包

URL：https://npo-yamagoya.org

ＮＰＯ法人やまごやは、障害の社会モデルに基づくインクルーシブな地域づくりを推進しています。

▶ 報告書全文（PDF）はこちら

報告書全文

令和７年度山形県ＮＰＯ活動促進補助事業

収支精算書

事業の名称	障害の社会モデルに基づくインクルーシブな学びの場推進事業
団体名	特定非営利活動法人やまごや

１　収入の部

（単位：円）

区分	精算額	内容
県補助金	1,000,000	令和７年度山形県NPO活動促進補助金
当該事業による収入		
その他収入		ポイント付与分
自己資金	12,341	
合計	1,012,341	

２　支出の部

（単位:円）

区分	精算額	内容
謝金	140,000	講師謝礼金
旅費	1,350	ガソリン代（チラシ配布）
印刷製本費	425,270	チラシ、報告書作成等
消耗品･材料購入費	17,262	コピー用紙、インク代
通信運搬費		
保険料		
使用料	50,084	会場使用料、Zoom使用料
人件費	281,375	事務局・コーディネーター人件費
(委託費)	97,000	写真撮影、Zoomサポート
(備品購入費)		
(修繕費)		
合計	1,012,341	